

浦幌町立博物館だより

平成30(2018)年3月号

平成30(2018)年3月1日発行

編集・発行：浦幌町立博物館 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / 電話：015-576-2009 / FAX：015-576-2452

E-mail: museum@urahoro.jp

「むかしの暮らし」どう伝える？

見ただけで伝わる？

博物館には、町の人からの寄贈品を中心に、さまざまな資料が集められています。それらは、常設展示や企画展示を通じて、人々にご覧いただいています。

しかし、これらの資料をただ眺めているだけで、実際に当時の人々の「暮らし」をイメージすることができるでしょうか？こうした資料が、実際にどのように使われていたのか？を再現して伝える事が、「収集」の次の段階として博物館に求められる大切な役割だと感じています。

学校の授業として

毎年、2月になると、浦幌小学校の生徒さんが博物館へ見学に来られます。目的は「むかしの暮らし」の授業見学です。



足踏み式ミシンの実演(左)と、大豆を石臼で挽いて「きなこ」をつくる体験(右)



このとき協力していただくのが、これらの道具を使って生活していたボランティアの方々です。今年は石臼で大豆を挽く体験、足踏み式ミシンで布を縫う体験、火鉢で豆を煎る体験を実演・指導していただきました。

コンテンツの充実が課題

こうした来館利用のほか、学校へ貸し出して使える「出前授業セット」

を用意する博物館が増えていきます。当館にはこれまで無かったので、今年は貸出用の資料を整備したいと考えています。

また、高齢者の方に若い頃の生活を思い出して元気になってもらう「回想法」での活用も求められています。資料活用のコンテンツを充実させることが、博物館の喫緊の課題だと、あらためて感じています。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)

ひな人形を末永く残していくために



常設展示室内に飾られているひな人形7段飾りの一例

2月に入り節分も終わると、暦の上では一気に春めいて来ます。春の行事として代表的なもののひとつに、3月3日の「ひなまつり」があります。当館では、毎年この季節になると、館で収蔵している「ひな人形」を公開しています。

従来、ロビーでの飾り付けが多かったのですが、ここ数年は常設展示室内に段飾りなどをバラバラに配置し、探しながら見て廻る「ひな人形をさがせ!」の形でご覧頂いています。これは、ロビーがガラス張りであるため、紫外線を含む太陽光線を浴びてしまうため、人形の塗装や小道具の布・紙などが劣化してしまうのを防ぐ意味があります。

このため、ちょっと薄暗くて寂しいかも知れません。しかし、これも人形達を末永く伝えていくためですので、ご理解をお願いします。